



「持続可能な社会の創り手」を育てるための

FTC チェンジメーカー 教育プログラム アクティビティブック



FREE THE
CHILDREN

FTC チェンジメーカー教育プログラム アクティビティブックへようこそ

フリー・ザ・チルドレンが提供する「FTC チェンジメーカー教育プログラム」にご登録、ご活用くださり、ありがとうございます。子どもや若者が社会問題に取り組むための一歩をふみだせるよう彼らの力を引き出し、エンパワーするというミッションをみなさまとともに共有できることを、大変嬉しく思います。

現在、世界で 16,000 以上の小中高校や、青少年グループが「WE Schools (FTC チェンジメーカー教育プログラム)」に登録し、学校や地域で FTC チェンジメーカー教育プログラムの教材を活用しながら子どもや若者の心の健やかな育成とともに、サービスラーニングの実践に取り組んでいます。

重ねて、「FTC チェンジメーカー教育プログラム」へのご参加と、日頃より子どもや若者の力を信じ、育むために様々な取り組みをされている先生や指導者のみなさまのお働きに心より敬意を表します。

持続可能なより良い世界に向けて、ともに歩んでまいりましょう！

Together, WE can change the World,

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

FTC チェンジメーカー教育プログラムチーム一同

FTC チェンジメーカー教育プログラム アクティビティブックの活用方法

FTC チェンジメーカー教育プログラムガイドブックに記載されているアクティビティの進め方が詳しく載っています。



このマークの横に記載している番号と照らし合わせてアクティビティをお探しくささい。

STEP 0 ～ STEP 4 の各アクティビティの★マークで実施の判断基準を設けています。

★★★★★ 必須アクティビティ

★★★★ 重要アクティビティ

★★★ アクティビティ (丁寧に進める際にお勧め)

★★ アクティビティ (丁寧に進め、単元に余裕がある場合にお勧め)

★ アクティビティ (今まで授業で取り上げていない場合、実施推奨)

各アクティビティで必要なスライド資料やワークシートは FTC チェンジメーカー教育プログラムの WEB サイトにおいて、

無料でダウンロードいただけます。必要なワークシートや説明資料は各アクティビティの説明文章に掲載しております。

なお、本「FTC チェンジメーカー教育プログラム」では、基本的には、学習者を子どもや若者／児童・生徒とし、指導者向けの手引書となっていますが、学習者の対象の幅を広げ、おとなを対象にしてご活用いただくこともできます。また、学習者を、「子どもや若者」または、「児童・生徒」と表記したり、指導者を「先生」または「教育者」と表記したりしている場合があります、アクティビティによって表現に違いがございます。

FTC チェンジメーカー教育プログラム アクティビティブック 目次

STEP 0-1 セーフスペース	4
STEP1-A1 地域社会との関わり・グローバル化について考える	6
STEP1-B1 問題蜘蛛の巣	7
STEP1-B2 ワールドマップ	8
STEP1-B6 問題コンパス	11
STEP1-C1 ペアを探せ!SDGs 問題マッチング	12
STEP1-C2 24 時間 SDGsを探せ ～SDGsを詳しく調べよう～	13
STEP1-C3 将来の夢×SDGsを探せ ～キャリア教育の SDGs～	13
STEP1-D2 スピーチから考える子どもの権利条約	14
STEP2-A1 チームビルディング シュータワー	15
STEP2-B1 インスピレーションカードゲーム	16
STEP2-C1 Gift + Issue = Change!	17
STEP2-C2 S.M.A.R.T 目標を知ろう!	19
STEP2-C3 アクションの7つのステップを把握しよう! (キャンペーンキット編)	20

STEP ^{ゼロ}0 セーフスペース（安心できる空間）づくり

アクティビティ STEP 0-1 セーフスペース（安心できる空間）づくり

学習者の児童や生徒が、安心して参加し、発言ができるような場づくりをするためのアクティビティです。共に活動に取り組む仲間として、学習者が相互に尊重し、参加し、発言ができるようにするにはどんなガイドライン（約束）があれば良いかを学習者自身が考えます。例えば、発言者の方を向いて話を聞く、無理強いをしない、拒否権がある、ここで話したことは他の場では言わない、などの意見が出されるかもしれません。また、すでにクラス（グループ）にある約束ごとなどと繋げて考えるよう促すなど、多様な決め方が可能です。

目的：学習者が見方や感じ方は人それぞれ違って良いことを理解し、異なる意見や価値観を尊重できるようになる。人は誰もが人間として尊重されるべき尊い存在であることを理解できるようになる。

内容：学習者が相互に尊重し、安心して話し合いや活動ができるようなガイドライン（約束）は何かを考える。

所要時間：15分～30分

実施基準：★★★★★

対象：小学校低学年～

形式：グループワーク / 全体

用意する物：大きな模造紙と付箋紙、ペン（黒板やホワイトボードに書き出し、あとで清書するなども可）

▼ワークの進め方：

1. ムードづくりをする

これから、社会問題を解決するためのアクションをグループで取り組むことを伝える。そのためには、グループの仲間を尊重しあい、楽しく安心して話し合いをしたり、活動をすすめたりすることが必要であることを伝える。では、どんな環境や態度なら安心して話すことができるのかを想像してもらう。このとき、学習者がリラックスして考えられるような BGM を流したり、指導者自身が穏やかに語りかけたりすると良い。

2. お互いに期待することを言い合う・確認する

各グループ（または、一つのグループ）でガイドラインを決めるために、思いつく内容を発言してもらう。「人前で意見を言う時、緊張せずに喋るには周りにどんな反応をして欲しい？」「グループ・ディスカッションで、安心して話すにはどのような環境（態度）が必要？」というような、期待する要素を想像できるように問いかける。すぐに意見が出なかったり、決まった学習者のみが発言したりする場合は、一人で考える時間をとる。このとき、複数の付箋を各人に配布し、1つの意見を1枚の紙に書くように伝える。学習者が偏見を持っていたり、何も考えられずにいたりする場合があるが、指導者はそれらを否定せず、まずは受け止める。各人がどのようなことを期待しているのかをここでは確認し、安心して意見を言える環境とはどんな場かを問いかける。相互に尊重し多様な価値観を認め合いながらすすめることの重要性に気付くよう促す。

3. セーフスペースのためのガイドラインを作る

2. で出た意見を踏まえて、グループで守っていきたい約束を確認していく。このとき、出された意見に違和感や懸念があるかを尋ねる。人は賛成かどうかを尋ねられるより、懸念点を尋ねられる方が異論を発言し

やすいためである。以下の要素が学習者から出されなければ、指導者が追加で問いかけなどして、以下の観点がカバーされるようにフォローする。

- ・**Welcome**: 自分と異なる意見でも、否定せず、受けとめる
- ・**Challenge**: それぞれが積極的に参加することで、相互に高め合う
- ・**Choice**: お互いに無理強いはいしない
- ・**Confidential**: ここで話したり聞いたりしたプライベートなことを他の場で人に言わない

4. 他の約束ごと等と繋げる、ガイドラインは変更可能!

学校や学級単位ですでに話合いの約束ごと等がある場合、それらに繋げるのも良い。また、「FTC チェンジメーカー教育プログラム」を進めていく中で、追加したり変更したりしたいガイドラインがあれば、誰でもいつでも提案ができ、グループ(クラス)の仲間と確認しあってガイドラインのアップデートができることを伝える。

5. 掲示する

グループ(クラス)で決めたセーフスペースのためのガイドラインの文言を模造紙に書いて目に入る場所に貼ります。問題があった場合は「みんなで作った約束ごとだね」と指摘して内容を思い出すよう促す。

※「FTC チェンジメーカー教育プログラム」のステップを進めていく中で、学習者のモチベーションが下がったり、問題が発生したりした場合は、いつでもセーフスペースの内容は追加や修正できることをその都度伝え、みんなで協力し、相互に助け合えるようにサポートする。

セーフスペース 仲間を信頼し成功させるために

- ・積極的に参加する。
- ・みんな同じ立場。上から目線な態度はとらない。
- ・ワンマイク。誰かが話しているときは、話さない。
- ・意見を最後まで聞く。
- ・批判・否定はしない。
- ・自分と違う意見だったからと言って、笑ったり、後からこそこそ話したりしない。
- ・相手の意見をまずは受け止めてから自分の意見を伝える。
- ・グループ内で話した個人的な話を、他のグループの人に勝手に話さない。
- ・話したくないときはパスもOK!
- ・聞いているよ、を表すために...
 - うなづく!
 - 顔を話している人の方に向ける!
 - 目を合わせる!
 - 何か疑問があったら、どんどん質問する!

参考: 小学6年生の学級で作成したセーフスペースの内容(ガイドライン)

STEP^{ワン} I 取り組みたい社会問題を決めよう

アクティビティ STEP I-AI 地域社会との関わり・グローバル化について考える

地域（ローカル）との繋がりと、世界（グローバル）との繋がりを身近な生活スタイルから考えていきます。学習者の児童や生徒が自分が生活する地域社会（まち）や国際社会を見つめ、繋がりを実感できるようにします。

目的：学習者が、地域社会（まち）や世界と自分の生活がどのように繋がっているのかについて考え、相互に関係することで生活が成り立っていることを理解する。

所要時間：45分～

実施基準：★★

対象：小学校中学年～

形式：グループワーク / 全体

用意する物：ワークシート A の配布（黒板やホワイトボードに書き出し、あとで清書するなども可）

▼ワークの進め方：

(1) 地域社会（まち）との関わりを考える（20分～）

ねらい 地域社会（まち）は、個人、家庭、学校、町内会・自治会、公共施設・地方公共団体、企業、NPO など多様な主体が社会的・経済的活動を営むことによって成り立っており、相互に関係しあっていることを理解する。

ポイント

◇地域社会の定義：ある一定の地域に住む人々から成る社会。地縁社会。（大辞林第三版、三省堂）

◇地域社会を構成する組織や場所：「学校」「町内会・自治会」「病院」「警察署」「消防署」「役所」「図書館」「スーパーなどの店」「レストラン」「公園」「プール」「児童館」「工場」「ごみ処理場」「老人ホーム」「障害者施設」「学習塾」「NPO」「神社」など。

◇地域社会を構成する組織や場所の役割：「教育の提供」「地域の安全を守る」「環境美化」「文化・スポーツ活動」「子どもや若者の居場所や遊び場の提供」「医療の提供」「社会福祉の提供（高齢者福祉や障害者福祉、児童福祉など）」

◇人間が生活するうえで地域社会でおこなっている活動・享受するサービスの種類：消費、生産、労働、教育、衛生・医療、清掃、遊び、スポーツ、芸能・芸術、祭り、祈りなど

ワーク A (ワークシート A) を各学習者に配布し、問いかけていく。

問①) 私たちが安心して、健康的・衛生的に、人間らしく生きるためには、どんなモノやサービスが必要ですか？

⇒ 予想される意見：お金、スマホ、テレビ、ゲーム、食料、サッカーボールなどのスポーツ用品、本、メガネ、薬、お菓子、楽器類、着るもの（衣服）、自分の時間、警察、ごみ収集、下水処理、消防など

⇒ 学習者から出てこなかったら、指導者から下記の「必要なモノ」を伝えてください。

飲み水、食料、教育（学校）、保健医療、仕事、住居（家）、エネルギー、警察、ごみ収集、下水処理、消防など

問②) 問①で出た「生きるために必要なモノ」は、自分が住むまち（地域社会）でどんな組織やヒトが提供してくれますか？ どこに行ったら手に入りますか？（問①で学習者が書いた付箋紙に書くように伝える。）

⇒ 予想される意見：銀行、ケータイショップ、家電量販店、スポーツショップ、体育館、スポーツグラウンド、公園、書店、図書館、薬局、病院、スーパー、公民館、学校、水道局、農地（農家）、電力やガス会社、警察署、清掃局、消防署、など。

●ポイント!●ここで、地域社会（まち）を構成する組織や場所が様々あることを確認する。

問③) 私たちが健康的に、安心して、衛生的に、人間らしく生きるために、改善したら良いまちのルールや、仕組み（サービス）や、モノを、考えてみてください。※思いつくものは何でも OK

例) 夜道が暗いので、電灯を増やす / 面白い遊具を公園に増やす / Wifi が無料で使える場所を増やす
自転車専用の道を整備する / 給食のデザートの種類を増やす / 学校の制服や校則をなくす / 痴漢やスリをなくすために、バスや電車に防犯カメラをつける / 野良猫を殺処分するのではなく、野良猫引き取りのためのグループを設置する など

●ポイント!●学習者一人ひとは、大切な地域社会（まち）の構成員の一人であること、子どもであっても、より良いまちづくりのために声をあげてよいことを伝える。意見の内容に応じて、どこに自分の声を届けたらよいのか調べると良いことを伝える。自分勝手な意見では、聞いてもらえないことも伝える。

アクティビティ STEP I-AI 地域社会との関わり・グローバル化について考える

ワークシートA

①) わたしたちが あんしん して、けんこうてき えいせい 的に、にんげん 人間らしく 生きるためには、どんなモノや

サービスが ひつよう 必要ですか？ 思いつくものをいくつでも書いてみよう。

例) 飲み水、シャワー、せっけん、寝る場所、あそぶ場所……

問②) 問①で考えた「生きるために ひつよう 必要なモノ」は、自分が じぶん す 住むまちでどんな そしき 組織やヒトが

ていきよう 提供していますか？ どこに行ったら手に入りますか？

問③) あんしん して、けんこうてき えいせい 的に、にんげん 人間らしく 生きるために、あったらよいまちのルールや、
しくみ(サービス)や、モノを、考えてみてください。※思いつくものはなんでも OK!

(2) 世界(グローバル化)との関わりを考える(20分～)

ねらい 地球規模でおきていることや世界と日本にいる私たち(の暮らし)は関わっていることを理解する。

ポイント

◇海外からやってきたヒトやモノは私たちの暮らしにたくさん!

ヒト:観光客、労働者、留学生、会議や交流会に招へいされた人、専門家、研修生、アーティスト、住民など

モノ:輸入された食料品(農産物、畜産物、水産物、加工品、原材料、水)、外国産商品(衣類、雑貨、電化製品、車、家具、商品の原材料、植物、木材、鉄鋼品)、エネルギー(石炭、天然ガス、石油)、情報、技術、言語、芸能文化、音楽、宗教、ウィルス、医療関連品、薬物、外来生物、海洋ゴミ、黄砂などの環境汚染物、新型コロナウイルスのような感染源になるものもホット 이슈

◇グローバル化が進展する社会を考える

近年インターネットや物流の発達により、外国の商品を簡単に購入することができ、食卓の上にも、世界中のものがあふれており、インターネットで簡単に世界中の情報やモノにアクセスすることができる。人・モノ・金・情報だけでなく、様々な文化・価値観が国境を越えて行き来するようになり、ますますその動きは激しくなっている。このことは、世界の国々、人々が相互に依存する関係になっていることを表している。「世界」は私たちにとって、ますます身近な存在になっていることを理解する。

ワーク B

問) 私たちの暮らしで見かけたり、聞いたりする海外からやってきたモノは、何があるでしょうか。それはどこからやってきたでしょうか。それらのヒトやモノによって、私たちはどのような影響を受けているでしょうか。

⇒ ワークシート A の裏面に、思いつくものを書いていくように伝える。

予想される意見: コロナウィルス、チョコレート、コーヒー、紅茶、コットン(Tシャツなど洋服)、バナナなどの果物、海洋ゴミ、外来植物、外来生物(カミツキガメ、ヒアリなど)、レアメタル(スマホや PC、ゲーム機、自動車の製造に欠かせないタンタルなど)、音楽、イケアやコストコなどのスーパー、Facebook や Twitter などの SNS

※上記 **ポイント** であげたものを紹介していく。

●ポイント! ● 海外からやってきたヒト・モノ・サービスなどの多くは、私たちの生活を豊かに彩る、なくてはならないものですが、中には病気や、環境破壊を引き起こす危険なものもあります。また、逆もまた然りで、日本から海外に向けたモノの中には、良い物も悪い物もあります。いずれにしても、私たち日本に暮らす一人ひとは、世界を構成する一員であり、私たちの暮らしは世界とつながっているため、相互に影響を与え合う存在であることを伝える。

**アクティビティ STEP I-BI 問題蜘蛛の巣**

学習者が様々な社会問題は相互に関わりあっていることを視覚的にとらえられるようにします。そして、今後、問題解決に向けてアクションを起こす際に、大規模なアクションを起こすことが重要なのではなく、些細だと思われるアクションや、身近にできることに取り組むことは意義深いと気付けるように種まきをします。

目的：自分が関心を持っている社会問題を知り、その他の社会問題との関連性をイメージできるようになる。

実施基準：★★★★

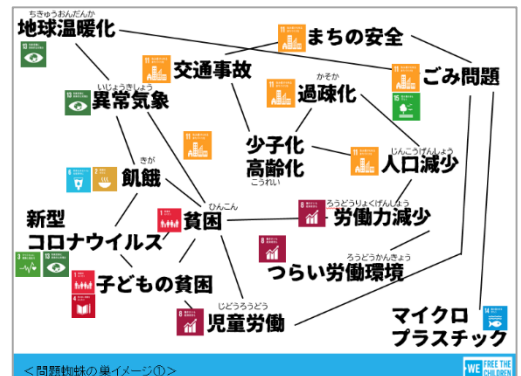
対象：小学校高学年～

形式：グループワーク / 全体

用意する物：付箋、大きな模造紙（黒板やホワイトボードに貼り付けることも可）

▼ **基本編** ワークの進め方：所要時間 40 分

1. 学習者が思いつく、または、関心を持っている社会問題を1枚の付箋に1つずつ書きだしてもらい（グループごとに考え、最低でも5個以上書き出すよう促す）。
2. 書き終わった付箋を模造紙に貼り付け、関係がある（繋がっている）と思う問題同士を線で繋げてもらう。なぜその二つが関係しているかも説明してもらう。（どのように影響を与えあっているかなど）。
3. 2の作業を繰り返し、線が増え、蜘蛛の巣のようになるまで続ける。
4. 1つの社会問題は他の問題の要因にもなり、結果にもなっており複雑に絡み合い関わっていることを、蜘蛛の巣の様な状態から視覚的に確認する。指導者は課題の一つを手で覆い、「この問題が無くなったら、どうなると思う？」と問う。ここで、「一つの問題を解決すると、波及効果で他の問題もポジティブに変化させることが可能」であることを確認する。
5. 各社会問題がSDGsのどのゴールに向け、国際社会が解決に向け頑張っているかゴールの番号を書いていく。可能なら、グループ内でもどのような解決策があるかを考えて発言を促す。
全部の問題が解決に向かっていく状態になるまで続ける。



▼ 進め方のヒント：

学習者が社会問題を思いつかない場合は、指導者がヒントをだす。例えば、大きな社会問題のテーマを伝える。

例) 貧困・環境問題・テロ・差別・虐待・難民・児童労働・人身売買・食糧廃棄・いじめ・伝染病・失業など。

参考になるサイト：NHK（やさしい日本語で書いたニュースサイト）<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>

▼ **事前学習編** ワークの進め方：所要時間 45 分

1. 学習者に気になっている社会問題に関するニュースを調べ、ニュース記事を持参するように伝える。
2. 調べたニュース記事を元に、学習者にクイズを 2 問程度作成するように伝える。

※3 択クイズ、数字クイズ、理由当てクイズなど。口頭質問で答えられるものを想定。

例 1) 日本の報道自由度は世界で何位？1位の国はどこ？ 例 2) 貧困ラインは1日の収入何ドル？

3. 作成したクイズを、グループ内で出し合うように伝える。

4. 全員がクイズを出し終えたら、振り返りの時間を設ける。

「初めて知ったニュースがあったという人？それは何のニュース？」「なぜその記事を選びましたか？」など

5. クイズで出た社会問題やその他興味のある社会問題を書き出し、**基本編**ワークに繋げる。

アクティビティ STEP1-B2 ワールドマップ



世界の地域ごとに、人々がどのような暮らしをしているのかを視覚的に理解します。学習者一人ひとりが世界の大陸ごとの人となり、生まれた場所によって環境が変わる現状を見つめ格差を学びます。

目的：世界の地域ごとの現状を表すデータを基にワークショップを行い、格差を認識し原因を考えていく。

所要時間：45分

実施基準：★★★★★

対象：小学校中学年～

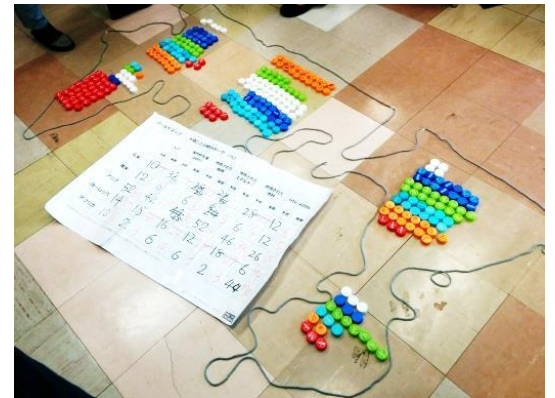
形式：グループワーク／4～6人毎に1グループとなっても良いし、1クラス全体で取り組んでも良い。

用意する物： ※扱うデータは最大6種類。時間と状況に応じ3～6種類で実施するとよい。

- ・ロープ（約6m）×グループ分
- ・データを表すチップ6種類×グループ分
（チップの代わりに、靴やペン、消しゴム、ペットボトルキャップを使用することも可能。）
- ・データ記入用シート×グループ分
- ・シート記入用マーカー×グループ分
- ・正解・解説データ（パワーポイント投影 or 印刷配布）

▼ワークの進め方：

1. 学習者にロープを渡し、アイスブレイクを兼ねて話し合いながら世界地図を作ってもらう。あまり時間をかけないよう、制限時間3分程で行う。白地図を大きく印刷して配布し世界地図を作り易くサポートしても良い。
2. 5大陸（北米、南米、アジア、ヨーロッパ、アフリカ）があるかを確認する。
3. 1つずつデータ（まずは人口）の予想を行い、チップを置いていく。1つのデータごとに制限時間を設ける。予想が終わったら、データ記入シートに数字を記入する。他のデータも同じように進めていく。
4. 全てのデータの予想が終わり、記入シートを見ながら変更したいものがあれば書き換えても良い。
5. 実際の数字を発表する。
6. 振り返りと解説を行う。
*学習者が考えたデータと、実数のデータを見比べながら、問いかけを行っていく。問いかけの間に解説を入れ、答えのない問いかけに思考をめぐらしてもらう。

振り返り 質問例

1. 今の自分の気持ちを一言で言うと、どんな気持ちですか？またそれは、なぜですか？
2. びっくりしたことはありましたか？それはなぜですか？
3. このデータには、何かパターンや、法則がありますか？
4. なぜ GDP と消費食物のデータがほとんど同じ数値になっていると思いますか？
5. どこの大陸の人が一番満足していると思いますか？なぜですか？
6. 世界は最初からこの分配だったと思いますか？なぜこのようになったと思いますか？（何が原因でこのようになったと思いますか？）
7. このデータを見て、違和感がありましたか？それは、何ですか、なぜですか？
8. データを見て不公平さ・不公正さを感じた人は、改善するために、できることはあると思いますか？

9. 世界の状況を改善するために、あなた自身が個人的にできることはありますか？（注意：なるべく現実的で具体的な行動を言ってもらおう）

* 貧困率の高い地域はどこへんかについて調べ、格差の原因など探してみる。

* 世界のデータに、日本にいる私たちも関わっているという意識の醸成を行う。

大陸ごとの統計データ（数字はすべて％）：

	人口		国内総生産 (GDP)		消費された 食料		消費された エネルギー		リオ五輪 メダル獲得		HIV/AIDS 感染者率	
	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際
北米		8		28		29		22		25		6
南米		6		6		13		5		4		5
アジア		60		33		30		41		39		15
ヨーロッパ		10		30		24		28		29		4
アフリカ		16		3		4		3		3		70

・地球上で HIV/AIDS ウイルスに感染している人たちの 70%がアフリカにいるという意味。（アフリカにいる人たちの 70%がウイルスに感染しているという意味ではないことを補足説明する。）

・ワールドマップ統計データ作成の参考データ：

「人口」：United Nations Department of Economic and Social Affairs Population Division, 2015 年のデータ <http://esa.un.org/unpd/wpp/Download/Standard/Population/>

「国内総生産」：世界の統計 2015 総務省統計局, 2013 年のデータ

「消費された食料」：2025 年における食糧需給の見通し, 2012-14 年のデータ

「消費されたエネルギー」：世界の統計 2015 総務省統計局, 2011 年のデータ

EXPLAINTHATSTUFF last updated: April 17, 2016

<http://www.explainthatstuff.com/energy.html>

「2016 年リオオリンピックメダル獲得数」

<http://www.asahi.com/olympics/2016/results/medal/>

「HIV/AIDS」：AVERT 2014 年のデータ

<http://www.avert.org/professionals/hiv-around-world/global-statistics>

※諸データは、指導者が実施時にできるだけ最新のデータに置き換えてください。



アクティビティ STEP1-B3 国際問題：児童労働

前単元で、「南北問題」や「地域格差」を目の当たりにして、学習者は社会問題の構造をイメージすることができたと思います。乗り越えられない格差により、毎日を生き延びるだけでも大変な貧しい生活を送っている子どもが世界にはたくさんいます。世界の同世代の過酷な環境で働く「児童労働問題」を学習者と一緒に見ていきます。



アクティビティ STEP1-B4 教育の重要性の理解

貧困の状態は、世代を超えて連鎖しやすく、抜け出すためには、子どもへの教育支援が非常に重要とされています。2000 年代に入ってから、初等教育の機会参加はかなり改善されましたが、いまだに 6100 万人の子どもたちが、小学校にも通うことができていません。

子ども達が未来へ希望をつなぎ、貧しさから抜け出すために、さらなる初等教育の重要性の認知度向上と、支援が必要です。その認識を深めるためのアクティビティになります。

作成中



アクティビティ STEP1-B5 国際問題・貧困編

貧困の中で暮らす人々の状況や貧困がもたらす子どもへの影響について理解を深めることができます。

貧困の定義の確認、クイズ形式で世界の貧困の状況を学べます。また、貧困ラインである一日 200 円以下で生活するとはどういうことかを話し合い、貧困の根深い問題を理解していきます。

作成中



アクティビティ STEP1-B6 問題コンパス

様々な社会課題をグループ内で整理し、メンバーの中でどのアクションに取り組みたいか、どの課題に興味関心があるかを見つけるアクティビティになります。STEP2のアクション計画を立てるにあたり、意見をまとめる際に活用いただけます。

目的：グループで一番アクションを起こす際に、どの社会課題が興味のある課題なのかを見つける

所要時間：45分

実施基準：★★★★★

形式：グループワーク / 全体

用意する物：白紙の A3 用紙 / 模造紙 4 枚 / マーカー / 養生テープ /

ワークの進め方：

1. 話しやすい・動きやすい空間を作る（机などないほうが好ましい）。
教室の 4 か所に「情熱がある」「興味がある」「疑問に思う」「関心がない」とそれぞれ書いた A3 用紙を貼る。
2. 全体に対し以下の質問をし、出てきた社会課題を書き留める
 - ・あなたがもし世界的なリーダー/ジャーナリストなら、どんな課題に取り組めますか？
 - ・よくニュースや新聞、ネットで見かける社会課題はなんですか？
 - ・どんな課題が、あまり世間的に注目が集まっていないと思いますか？
 - ・どんな課題が、あなた自身を悩ませていますか？（課題に対する知識がなくても大丈夫）
3. それぞれの考えを共有したのち、上がった社会課題を読み上げ、1 で用意した 4 つの場所にそれぞれ移動してもらう。この時、この回答には正解はない事、それぞれの気持ちで動いてよいことを伝えてから行う。それぞれ何人ずつ居たか書き留めておく。
4. “情熱がある”を多く集めた社会課題のうち、上位 4 つを取り上げ、話し合いを行う。
 - ・この課題について知っていることは何ですか？
 - ・なぜ大切なのでしょうか？
 - ・この課題は他のどんな課題と関係がありますか？
 - ・もしこの課題に取り組まなければ、人や地球に及ぼす影響は短期間/長期間でそれぞれどんなことが考えられますか？
 - ・どのように私たちは変化を及ぼすことが出来るのでしょうか？
 - ・私たちがアクションを起こす際に考えられる困難はどんなものがあるのでしょうか？
5. 4 つの社会課題に対してそれぞれ話し合いが終わったら、一度 4 つ全部に広げて再度意見がないか確認をする。

グループ内で、今取り組む社会課題を 1 つ決める。複数のプロジェクトに挑戦也可。



アクティビティ STEP1-C1 ペアを探せ!SDGs 問題マッチング

SDGsにはどのようなゴールがあるのかを学ぶためのアクティビティです。各ゴールの裏返しである問題を、1つのゴールにつき2つずつ配布し、同じゴールを目指しているペアを見つけます。

ペアを探す中で、できるだけ多くの問題に触れることで、SDGsのゴールを理解するだけでなく、なぜ必要なのかを理解できるようにしていきます。

目的: SDGsのゴールだけ見ず、身近な問題に触れることで、SDGsを身近に感じる

所要時間: 20分 (SDGsの解説を入れる場合 45分)

実施基準: ★★★★★

形式: グループワーク / 全体 34人以上の場合、2グループに分ける

用意する物: SDGsペアマッチングシート、SDGs一覧表

ワークの進め方:

1. 話しやすい・動きやすい空間を作る(机などないほうが好ましい)。
2. アトランダムに、各ゴールに対する問題を2種類ずつ児童・生徒に配る
*奇数の場合、先生も加わるか、一人正解を確認する役割を担ってもらう
3. 時間制限を設けて、自分のペアを探し始める
4. ペアを見つけれたら、そのペアが正しいか SDGs ペアシートで確認する
5. ペアを見つけれたら人は、他のメンバーのサポートに回るか、SDGs の内容を読み進めてもらう
6. 全員がペアを見つける / 時間制限 で終了
7. SDGsの概要を説明する
8. 時間がある場合、17ゴールと169のターゲットを抜粋して説明をする



アクティビティ STEP1-C2 24 時間 SDGsを探せ ～SDGsを詳しく調べよう～

SDGsの調べ学習をすることで、社会問題をより包括的に理解することができ、自分の興味がどこにあるかも明確にすることができます。このアクティビティを通して、SDGsとの私たちの生活が深くつながっていることが分かり、SDGs解決には日々の行動を意識することが重要であると認識できるようにしていきます。

目的：私たちが普段過ごしている日々の中にも、社会問題に関係する事象がたくさん見られます。

様々な社会問題が身近にあることに気づき、その問題を解決するために、日本を含め世界各国の社会問題を解決するために SDGsが世界で決められ、ゴールに向けて動いていることを知り、国際社会の一員として身近なことからできること、国際社会に対してできることを考える意識を醸成します。

所要時間：30 分

実施基準：★★

形式：グループワーク/ 個人ワーク

用意する物：

- ・シチュエーションシート(全 8 種類。8 グループ各一枚、4 グループ各 2 枚、同じものを複数枚用意してひとグループ2～4 枚なども可能。)
- ・SDGsカード(各シチュエーションシート 1 枚につき 1 セット。予め各ゴールの 17 枚にカットしておく)

ワークの進め方：

1. グループごとにまとまって座る
2. ワーク①身近な社会問題を発見 を実施

所要時間：各グループシチュエーションシート 1 枚の場合 5 分、2 枚の場合 8 分程度、様子を見ながら延長

進め方：シチュエーションシートを各グループに配布。

「みなさんの日常のシチュエーション例を抜き出したシートになります。私たちが生活する中にも、ふと視点を

変えると様々なことが見えてきます。今日はその日常の中でも、社会問題について注目してワークを実施していきたいと思います。今手元にあるシチュエーションシート(それぞれ、通学路や家、放課後など違います)の中から、社会問題に関係する事柄に○をつけて、どのような問題か、何が問題なのかを話して、絵の外側に線を引いて書き出してください。見えている事象だけでなく、関連することなども想像して下さい。」

3. SDGsの説明

所要時間：5 分

進め方：SDGsについての資料を配布し、説明する。

参考：<https://ftcj.org/we-movement/sdgs>

「SDGsは諸外国の問題に対するゴール設定ではなく、私たちの住む日本における問題も含み、それらを解

決するために設定された、とても身近なものです。さきほど取り組んだワークで書き出した社会問題がどの

SDGsと繋がりがあるかを次に考えていきたいと思います。」

4. ワーク②:SDGsと各社会問題を結びつける を実施

所要時間:5 分

進め方:書き出した社会問題と SDGs を結び付けていきます。

SDGsのカードのセットをシチュエーションシートの枚数に応じて配布

「ワーク①で書き出した社会問題を解決する動きは、SDGs の 17 ゴールのうち、どれに関係していると思いますか?シチュエーションシートの空いているスペースに関係している SDGsのカードを置いて、書き出した社会問題と線でつなげてください。進めていく中で、新しく社会問題に気づいたら書き足して下さい。」

5. 他のグループ・シチュエーションを見る

所要時間:5 分

進め方:他のグループが書き出した社会問題と SDGsへの紐づけを知ることがを目的として、各グループのシチュエーションシートを見て回る時間を設けます

6. 気づきのシェア

所要:5 分～

他のグループを見て回って、気づきのシェアの時間を設けます。

・どのような傾向があったか

・自分たちが取り組んだシチュエーションシートと関連性はあったか

様子を見ながら、感想に加え、上記の内容に触れるように問いかける。

7.グループごとに、どのような意見がでたかを発表する。

8.私たちの生活の中で工夫できることを話し合い、すぐにできることが無いかを考え、書き出し、発表する。



アクティビティ STEP1-C3 将来の夢×SDGsを探せ ～キャリア教育のSDGs～

SDGs達成に向けたアクションは、他人ごとではありません。自分の将来やりたいことはもちろんSDGsに深く関わっていますが、具体的にどのようなかわかりが持てるかを考えます。また、将来だけでなく、今、消費者として将来のキャリアにどのように関わることが出来るかを考え、グローバルシチズンシップとしての基礎を育みます。

目的：自分の将来やりたいこととSDGsの関係を考え、SDGs達成に向けた主体者である意識を高める

所要時間：45分

実施基準：★★

形式：グループワーク/ 個人ワーク

用意する物：付箋 / A4 程度の白紙

ワークの進め方：

1. 自分の好きなこと、やりたいことを考える。そのキャリアは、どのような人に役立ったり、どのような社会の課題を解決する物かを考える。
2. その職業を調べ、その職業内でSDGsに絡めてどのような工夫が出来るかを考える。

例：パン屋：

- +目標8：適切な良い仕事と経済成長（障害者雇用や移民労働者の雇用配慮、天然資源のものを材料に使う）
- +目標12：責任をもって生産し、消費する（廃棄をゼロにできるように生産量を考える、空気や水、土を汚さずに、有害な化学物質は使わない、環境破壊につながらない生産をする。）

システムエンジニア：

- +目標9：災害に強いインフラ（生活するうえで必要な社会的な施設や設備のこと）を設計して、災害にあっても避難経路が携帯電話に表示できるような技術を開発する。

開発の基礎知識をデータ化して、発展途上国の子どもたちが映像で学べる学習教材を作る

- +目標11：障害者の人も暮らしやすいように、サポートの仕方や道案内の情報がすぐに検索できるようにインターネットの情報を整備する

3. 今、消費者としてできることは何かを考える

例：作られている者がSDGsに配慮されているものかを意識する。

意見が出にくい場合「SDGsに配慮されていないものに対して、企業に声を上げる力を持っている」ことを伝える

アクティビティ STEP1ーD1 子どもにまつわる社会課題を探せ！

子ども達の生活に密接している子どもの権利。しかし、残念なことに、子どもの権利が守られなかったがゆえに起きている悲しい事件や問題も後を絶ちません。子どもにまつわる社会課題から、子どもの権利が守られずに起きている社会課題を考えます。また、生活の中に当たり前に関わっている、気にしていなかった権利にも気づき、子どもの権利を深く理解することができます。

作成中



アクティビティ STEP1-D2 少年兵士と子どもの権利条約

コンゴ民主共和国の少年を通じて、子どもの権利条約が奪われている子どもについて深く考えていきます。
守られていなかった子どもの権利考えることを通して、子どもの権利条約について触れていきます。

目的：1、子ども兵士の事例を通して児童労働や国際的な課題を知る。

2、元子ども兵士ミシェルの話しを通して、生きていることの大切さ、ポジティブな想いの大切さを知る。

3、子どもの権利について学ぶ

所要時間：45分

実施基準：★★★★

形式：グループワーク 6～10人程度

用意する物：天井から紐やロープ

■教材概要

◇教材の種類：スライド(PDF 資料)、ワークシート1枚、子どもの権利シート1枚、映像資料(3分半)

■授業導入例：

日本は、未曾有の天災、大震災や津波、原発事故による放射能汚染、新型コロナウイルスなど様々な経験しています。新型コロナウイルスにおいては、私たちは、今までの生活や価値観を見直すことにもなりました。私たちが当たり前のこととして享受してきた便利で豊かな生活が、実は大変 危ういものの上に成り立っていたという事実。今まで考えもしなかったことです。

でも、よく考えてみると、私たちが享受している便利で快適な生活が誰かの犠牲の上に成り立っているという例は、他にもたくさんあるようです。例えば、携帯電話やパソコンをはじめとする便利な電子機器。もはやこれらの電子機器の恩恵なくしては、私たちの日常生活は成り立たないかのような気持ちにさえなります。周りには常に新しい製品の情報が流れ、私たちはさらなる利便性を求めて、古いものを捨て新しいものに飛びつきます。しかし、これらの電子機器に使われているレアメタルが資源を保有する国々で紛争を引き起こし、今この瞬間にも多くの人々を苦しめているのです。これからご紹介するミシェルもそんな紛争に巻き込まれ、苦しんだ過去を持つ青年の一人です。ミシェルの苦しみは 私たちとは無関係だと言い切れるのでしょうか？一緒に考えて行きましょう！

■授業の進め方とスライドの説明

1、スライドにのっとり、説明を行う

スライド6：補足説明

私たちが使う携帯電話、パソコン、ゲーム、テレビ、デジカメ、ハイブリッド・カー等にはレアメタルと呼ばれる鉱物資源が使われています。レアメタルには様々な種類のものがありますが、コンゴで産出される資源には、スズ・コルタン・コバルト、亜鉛、銀、銅、タングステン、ウラン、石油、天然ガスなど31種類に上ります。

スライド8：問いかけ例：

他に身の回りにコンゴ民主共和国で産出される資源と関係のある製品はあるでしょうか？

調べてみよう！ これらの製品なしで皆生活できるかな？

スライド 18：補足説明

※1 子ども兵士の中には、家族や親しい人の復讐のため敵対する軍隊へ自ら入隊を希望する子もいます。 ※2 恐怖心をなくしたり、脱走を防ぐために、薬物を投与されるなどしています。

中毒症状に陥らせるケースも報告されています。

※3 軍隊によっては仲間や肉親の殺害や身体の切断を強要されるなど惨忍な任務につかされることもあります。

※4 女の子たちの多くは、上官から所有物とみなされ、性的虐待を受け、望まない結婚や妊娠、HIV/AIDS などの感染の危険にもさらされています。

2、映像を見る

ワークシートを配布し、ワークを進めながら順次ワークに取り掛かります。

3、子どもの権利条約のリーフレットを配布し、子どもの権利について説明

参考：<https://ftcj.org/we-movement/childrights>



アクティビティ STEP1-D3 スピーチから考える子どもの権利条約

ニュースや、コンゴ民主共和国の少年のスピーチを通して、子どもの権利条約が奪われている子どもについて考えます。子どもの権利がどうしてできたのか、子どもの権利条約の内容をしっかりと学習していきます。指導案例とSTEP1-D2を参考に授業を進め、子どもの権利条約への理解を深めます。

目的：

子ども兵士の事例を通して児童労働や国際的な課題を知る。

他人と自分の許容範囲を知り、協力して課題を解決することが出来るようになる。

所要時間：45分

実施基準：★★★★

形式：グループワーク 6～10人程度

用意する物：天井から紐やロープを、床から1mほどの高さに吊るす（グループ数準備）

STEP2 目標を決めてアクション計画を立てよう



アクティビティ STEP2-A1 チームビルディング シュータワー

他人と自分の許容範囲を知り、協力して課題を解決することが出来るようになります。

紐さえあればすぐに実施でき、それぞれの役割の視点、大切さ、チームワークを挙げるために必要な要素は何かを体感できる簡単なアクティビティです。

目的：他人と自分の許容範囲を知り、協力して課題を解決することが出来るようになる。

所要時間：15 分

実施基準：★★★★

形式：グループワーク 6～10人程度

用意する物：天井から紐やロープを、床から1m ほどの高さに吊るす（グループ数準備）

ワークの進め方：

1. 児童・生徒をグループに分け、みんなの靴を使って、紐まで届くタワーを作ってもらおう。

2. ルールの確認を行う

- ①靴には足が入っていないといけない。
- ②同じ人の靴を 2 個連続で繋げてはいけない
- ③靴と靴の間に隙間があってはいけない。
- ④グループの誰か一人に「安全確認係」になる。道具は何も使ってはいけない。
- ⑤紐まで届いたら、グループの全員が大きい声で 5 秒数えたら終了。

※1 回目を行い、もし簡単であれば、紐を短くして 2 回目を行う。

3. 振り返りの質問を行う

- ・何が難しかったですか？
- ・イライラしましたか？なぜですか？
- ・どのような作戦を立てましたか？上手く行きましたか？
- ・靴の順番をどのように決めましたか？
- ・最初に靴を置いた人と、最後に置いた人のどちらが大変だと思いますか？

4. このワークで学んだことをグループで振り返り、全体に発表をする



アクティビティ STEP2-A2 ナンバー・タッチ

ミッション（目標）を達成するためには、チームにどのようなルールを設けるとよいか、仲間にどのような配慮があるとよいかを認識することができるようになります。準備は特にする必要がないので、すぐに実施できる手軽に始められる簡単なアクティビティです。



アクティビティ STEP2-BI インスピレーションカードゲーム

アクションには、大きく6つの種類に分けられます。その種類を頭に入れて、目的に応じて選べるようになることも重要です。まずは、どんなアクションがあるのか、想像の幅を広げていきます。

目的: 様々なアクションアイデアを出せるようになる

所要時間: 45分

実施基準: ★★★★★

形式: グループワーク 4人程度

用意する物: インスピレーションカード / 付箋 / 模造紙 (6枚)

ワークの進め方:

1. 社会課題にはどんなものがあるか質問し、すべて書き出していく。

※今までの授業で問題蜘蛛の巣や SDGsへの紐づけができていれば、それを活用

2. 「このような社会課題に対して、みんなにはどんなアクションが出来るのか考えてもらいたいと思います。アクションといえば、どのようなことが思いつきますか? (児童・生徒にやったことがあること、知っていることを挙げてもらう)

3. アクションには6つの種類があることを伝え、それぞれの意味を事例を出しながら補足説明していく。

・啓蒙活動 ・政治変革 ・自己行動変革
・資金調達 ・ボランティア ・物資支援

4. 「これはみんなへの“ギフト”です。このプレゼントを使って、アクションを出来るだけ沢山考えてみましょう! (インスピレーションカードを配布)」

5. 4人程度のチームを作り、チーム対抗でどこが一番沢山、そしてユニークなアクションを考えられるか勝負である事を伝える。

6. 制限時間 5-8 分程度で、出来るだけ沢山のアイデアを出してもらう。付箋 1枚につき1アイデア。

7. 書いた付箋を、アクションの種類ごとに分ける。多かったチームを祝福。全体も祝福。

8. 全員のものをアクションの種類ごとに模造紙に貼り、仲間の様々なアイデアを共有する

9. 全体を見ながら、どのアクションの種類が身近にできそもで、どの種類がなかなか難しそうか、話し合う

10. 次にどの種類が一番課題解決につながっていると思うか、話し合う

例 「どのアクションの種類が、社会課題を解決する上で重要だと思いますか?なぜですか?」

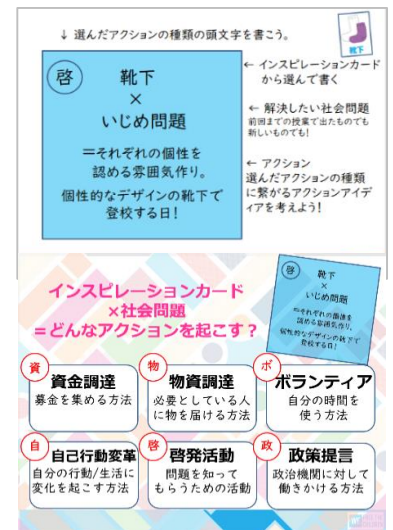
11. 9と10を比べて違いはあるのか、気付いたことはあるか、話し合う

12. このワークショップから学んだことを確認する

アクションの種類

- ▶ 啓蒙活動 …… 他の人に、自分の解決したい課題について知ってもらうために活動する方法
- ▶ 政治変革 …… 政策として変化を起こすために、政治機関に対して働きかける方法
- ▶ 自己行動変容 …… 自分の良くない癖や習慣を、良いものに変えていく方法
- ▶ 資金調達 …… 個人、企業、財団、政府機関などから、寄付を集める方法
- ▶ ボランティア …… 自分の時間を解決したい課題のために使う方法
- ▶ 物資支援 …… 必要としている人に届けるため、物を集めて支援する活動方法

全ての種類のアイデアが出てくることは難しいかもしれませんが。自分たちの思考の偏りや、経験の偏りがここに露見されると思います。ぜひ、出てこなかった種類のアイデアをみんなで考えてみて下さい。





アクティビティ STEP2-C I Gift+Issue=Change

キャンペーンの利用をせず、児童・生徒がすべて自由にアクションを考える場合や、長期休みや日常に、個々人が(もちろん複数人でやることも可能です)アクションを起こす際に、自分のギフト(できること、好きなこと)を使って、社会課題に取り組んで、変化を起こすアクションを考えるアクティビティです。

目的:自分のギフト(できること、好きなこと)を使って、社会課題に向けたアクションを考える

所要時間:30分 実施基準:★★★★★

形式:グループワーク / 個人ワーク

用意する物:ワークシート

ワークの進め方:

0.(時間に余裕があれば)好きなことを書きだす時間を設け、グループメンバーの gift を承認し合う

1. 自分が好きな事や出来る事、趣味、スポーツ、特技などを、Gift と書いてあるスペースに 2 分以内に出来るだけたくさん書いてもらう(ピアノを弾くこと、料理、映画鑑賞、サッカー、おしゃべりなど、5つ以上)。音楽の場合は、「聴くこと」なのか、「演奏する事」なのかなど、なるべく具体的に書いてもらう。
2. 次に、自分が興味のある課題を、Issue と書いてあるスペースに 2 分以内に出来るだけたくさん書いてもらう。(注:興味の無い事は課題だと知っていても書かないでもらう)。社会、国際、国内、家庭内、学校内、個人、どんな課題でも大丈夫です。
3. Gift と Issue に書いたものを組み合わせて、どんな変化(6つのアクションの種類を意識してもらう)を生み出せるかを書く。出来る・出来ないで考えるのではなく、思いついたアイデアをどんどん出してみよう!と促します。楽しくできそうなのがより素晴らしいアクションです。

例:①バレーボール + 児童労働

=バレーボールの試合でポイントを入れる度に、児童労働を無くすために必要な学校建設用に、家族や友達、学校の先生などに 100 円募金してもらう。また、優勝したら、インタビューで児童労働について話す。

②寝ること + ホームレス

=ホームレスの人と一緒に一晩過ごす。一晩すごせるごとに募金をしてもらう。終わった後に、聞いた話や、感じたことをみんなに伝える。

③料理 + 家庭内問題

=家族全員が協力して、コミュニケーションを取りながら手作りハンバーグを作る。手作りハンバーグのレシピを販売して募金を集める。

④ゲーム + 水不足の問題

=オンラインゲームのプロフィール欄に、興味のある社会課題をわかりやすく追記して、ゲーム大会で優勝したら、賞金を井戸建設に寄付したいと宣言をして、ゲームをする

5.(応用)記入したワークシートをグループ内で交換し、アイデアを書き足してもらったり、素敵なアクションアイデアに、いいね!とマークなどを付けてもらう。それを2,3回繰り返す

6. 仲間のアイデアを踏まえて、自分のワークシートを書き足す

7. 発表をする

ギフト イシュー チェンジ
Gift + Issue = Change!

自分のギフト(できること、好きなこと)を使って、社会課題に取り組んで、変化を起こそう!

Gift

できること、好きなこと

Issue

気になる問題

Change!

変化、アクション

※Gift、Issue それぞれを付箋に書き出して、組み合わせを考えて Change を考えていきます。

同じ Gift、Issue を何度も活用してももちろん大丈夫です



アクティビティ STEP2-C2 S.M.A.R.T 目標を知ろう!

アクションを成功させるためには、計画が全て! 計画を立てる際に、その計画が S.M.A.R.T になっているか照らし合わせながら、それぞれのスタイルに一番合った計画を作ります。

目的: アクション・プランの最終ゴールを具体的に細かく分類し、ゴールを達成するまでに必要なアクションを細かく考えられるようになる

所要時間: 45分 実施基準: ★★★★★

形式: グループワーク / 個人ワーク

用意する物: ワークシート

ワークの進め方:

1. S.M.A.R.T.モデルについて解説する

大きなゴールを小さく、具体的にしていきます。「具体的な詳細」と「確実なアクション」の二つを考えます。これらは「確実に出来る事」、「明確」、「簡潔」になるように気を付けてください。

2. 具体例を出し、クラス全体で S.M.A.R.T.目標を考えてみる

3. Gift+Issue=Change で決めた大きなゴール(最終目的)に S.M.A.R.T.を照らし合わせていく

伝える 4 つのポイント

1. S.M.A.R.T.が何なのか
2. 大きなゴールや障害を分析し、達成可能な小さなものへと変える
3. 作ったアクション・プランを元に、それぞれのスタイルに一番合ったアクションに気付く。

「S.M.A.R.T. 目標」

大きなゴール(最終目的)に S.M.A.R.T.を照らし合わせ、内容を分析し、達成可能な小さなものへと変えることができる SMART 目標。

「具体的な詳細」と「確実なアクション」の二つを考えます。

これらは「確実に出来る事」、「明確」、「簡潔」になるように気を付けてください。立てた目標に対して、それぞれのスタイルに一番合ったアクション計画を作り出します。

S.M.A.R.T.モデル

Specific (具体的): アクション・プランを細かく具体的に立てる。

Measurable (測定可能): 何が「成功」で、それをどう測るのかを決めておく。

Achievable (達成可能): 今置かれている状況で実際に実現可能なのか、現実的なのか。

Relevant (関連性): 取り組もうとしている社会問題に明確に繋がっているのか。

Timeline (タイムライン): いつまでに達成すべきなのか。アクションはどの順番で行っていくのか。



アクティビティ STEP2-C3 アクションの6つのステップを把握しよう！(キャンペーンキット編)

アクションを考えると、成功のイメージを持てることは非常に重要です。アクションの1～4ステップがアクションの計画、アクションの5ステップが実行、アクションの6ステップが振り返り。

最初に6つのステップで全体像を見ることで、成功のイメージを持ってもらいます。

*各キャンペーンキット、WEoriginalAction 冊子の簡易1枚シートになります。

目的:アクションの全体の流れを把握する

所要時間:45分

実施基準: ★★★

形式: グループワーク/ 個人ワーク

用意する物:ワークシート

ワークの進め方:

1. 取り組みたい問題を決めて、調べよう!

グループごとに、解決したい課題について調べる。もしくは、調べてきていた課題に対して、原因を考えていく。

何が起きているのか? 誰に関することなのか? どこで起きている事なのか?

なぜそれが課題になっているのか? 原因は何なのか? 解決方法は何かがあるのか?

どういう影響を与えているのか? など。

2. 仲間を見つけて、とことん話し合おう!

仲間の特徴を理解する。

みんなどんなことが好きで、得意なことは何なのか? なぜこの社会課題に興味があるのか?

3. 目標を決めてアクションの計画を立てよう

アクションの種類を話し合い、決定し、アクション実行の計画を立てる。

・目的や目標を決める ・誰が何を担当するのか ・いつまでに行うのか ・必要な物を用意する

4. Take Action! アクションを起こそう

責任を持ってアクションを起こす!

- ・写真や動画を取るのを忘れずに!
- ・口だけにならないようにする!
- ・批判されても、歯向かわない。
- ・一回目で成功しなくても、すぐにあきらめない!
- ・常識にとらわれないようにする!
- ・失敗は成功の元!
- ・楽しむことを忘れずに!

5. アクションを振り返ろう

どのような成果が出せたか、数字や行動を振り返ろう。ポートフォリオとして大切にしておこう。

6. 成果を報告・お祝いしよう

アクションを起こしたことをお互いに祝い合おう。社会に活動の輪を広げるために成果を報告しよう。

ポイント

アクション計画を立てた際に、個々の気持ちや考えを受け止められるような問いかけをお勧めします。

1. アクションを立てたことで、今、どのような気持ちですか？ 計画を立てる前と後では、考えや気持ちが変わったりしましたか？
2. なぜ自分が好きなことや得意なことを活かすことや、自分が興味を持っている課題に取り組むことが大切だと思いますか？